hinata
MIYAZAKI

ひなたレター

令和２年９月８日（火）　No.１

あいさつ

会　長　黒木　政信

初秋の候　会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

昨年の11月１日付けで「一般社団法人ひなたネットワーク」として登記が完了して、まだ１年を経過しておりませんが、本年度も個人及び企業として会員になっていただき、誠にありがとうございます。衷心よりお礼申し上げます。

さて、昨年度末から新型コロナウイルス感染拡大により、全世界的に大変な状況が続いております。「命を守ること」と「経済活動の活性化を図ること」を両立させることがいかに難しいかを感じさせられるこの頃です。

「一般社団法人ひなたネットワーク」におきましても、その影響は計り知れません。本来ならば年度早々に総会を開催し、会員が一堂に会した場で事業内容・予算等を協議・決定し、それに従って年間の活動を開始していなければならないはずですが、それもままならない状況です。ただ、総会内容につきましては書面審議により承認していただきましたので、できる範囲で事業等を推進していくことが肝要かと考えております。特に、ご指摘をいただきました「社会教育を元気にしたい団体への補助金事業」につきましては、10月に実施予定の役員会にて協議し、本年度中には皆様にお諮りしたいと考えております。

会員の皆様の所属団体におきましても様々に困難な状況があろうかと思いますが、チームワークとネットワークで何とか乗り切っていきたいものです。残暑厳しい折ですが、お互いに健康に留意しながら頑張りましょう。

総会書面審議ありがとうございました

新型コロナウイルスの影響で、当初予定していました総会も開催することができずやむなく書面審議とさせていただきました。ご多用の中にもかかわらずご回答いただきありがとうございました。皆様に郵送させていただいたとおり、承認多数のご回答をいただきました。本当にありがとうございました。なお、第４号議案令和２年度一般会計収支予算（案）の修正については、手書きで行ってしまいました、大変申し訳ありませんでした。修正したものをお送りさせていただきますので、ご了承ください。

今年度も残り後半分となりましたが、少しずつでも前に進んでいこうと思います。新規会員も募集していますので、お知り合いに是非お声かけをお願いします。

We will meet again.　（私たちは再び会います）

今年４月、エリザベス女王は、ロックダウン中の英国の人々にむけて行ったスピーチの最後に、こんな言葉を贈った。これは第二次世界大戦中に英国で大流行したヴェラ・リンの歌『We' ll Meet Again』をもじった文句だ。英国には、この文句に泣かされた人が大勢いたらしい。このスピーチの後、ラジオでもテレビでも何度もこの古い曲がかかっていた。

しかし、かんがえてみればおかしな話だ。なぜなら、私たちはロックダウン中も親族や友人や同僚に会っていたはずだ。オンラインで話したり、会議したりして日常的に接触していたからだ。先日、カナダ在住の作家の西加奈子さんと Zoom で対談したときにそのことを話すと、彼女はこんなことを言っていた。

「ネットで人類学者の記事を読んだんですけど、他者への信頼は、視覚と聴覚だけじゃなくて、嗅覚とか味覚とか触覚とかの感覚も使って築くものらしいのです。だからこうやってネットで話していることと実際に会うことはイコールではないみたいなんです。」

記事のリンクを教えてもらって読んでみたら、なるほど京都大学総長の山極壽一先生がこんなことを言っていた。人間は、視覚と聴覚を使って他者と会話すると脳で「つながった」と錯覚するらしいが、それだけでは信頼関係までは担保できないという。なぜなら人は五感のすべてを使って他者を信頼するようになる生き物だからだ。そのとき、鍵になるのが、嗅覚や味覚、触覚といった、本来「共有できない感覚」だという。他者の匂い、一緒に食べる食事の味、触れる肌の感覚。こうしたものが他者との関係を築く上で重要なのだそうだ。つまり、人間はまだ身体的なつながりのほうを信じているとも言える。そのうち脳のつながりだけで幸福を感じる人も出てくるかもしれないと山極先生は語っていた。しかし、まだいまのところは、人間は他者の身体を必要としているらしい。

オンラインでの「つながり」は「会う」こととは違う。それを本能的に知っているから、英国の人々も女王のスピーチの言葉に涙したのだろう。どんなにテクノロジーが発達しても、いまだに人を幸福にするのは、「会う」よろこびなのである。

「どこかで絶対また会いましょう。」

ビデオ通話を切るたびにわたしも女王みたいなことを言っていることに気づく。

早く人々が自由に移動できるようになり、失われた幸福な瞬間が世界中に戻ってくる日を待ちながら。

（JAF Mate８月号より抜粋）　ブレディみかこ＝文

社会教育の原点はフェイス To フェイス、人と人との関わりだと思います。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、人との関わりが制限されている今日、皆さんとお会いできないのがとても残念です。でも、会えないときが長ければ長いほど、皆さんとお会いできた日の喜びは何倍も大きいかもしれません。皆さんとお会いできる日を楽しみにもう少し我慢をして過ごしていきたいと思います。（事務局長　竹内）